

小型昇降装置の仕様案

- ・形式は、スルー型が望ましい（車椅子利用者や座位での利用を想定）。
- ・昇降台の有効幅は、800 mm以上とする（ただし、条件により 750 mmも可）。
- ・昇降台の奥行は、1300 mm以上とする（ただし、条件により 1200 mmも可）。
- ・昇降台の手すりは、あらゆる利用者を想定し、床面から 550 ~ 650 mmの高さに設置することが望ましい。
- ・昇降台の囲壁は、下部が見えないようにするために設置するのが望ましい。ただし、車椅子利用者によって、利用している車椅子の高さが異なり、圧迫感の印象が変わるため、床面から 900 mm程度まではマスキング（目隠し）を施し、900 ~ 1100 mm程度までは、圧迫感がでないようなマスキング（目隠し）等を施す必要がある。
- ・乗込み用スロープを設置する場合の勾配は、1/8（約 7 度、12%）以下とする。
（参考：旅客船バリアフリーガイドライン 乗降用設備 / 舷門の基準等の解説）
- ・昇降速度は、利用者が不安を感じない程度の速さとする。目安として、6m/min では遅い（ただし、駆動部の機構により 6/min でも可）。10m/min とする場合は、下り時の不安感を低減（足元が見えないようにするなど）の対策が必要となる。
- ・屈曲した通路の場合の乗込みに必要なスペースは、乗込み口から壁面等まで 1000 mm以上の幅とする。
- ・昇降機の耐荷重は、300kgf を基本とする（ただし、条件により 250kgf も可）。
- ・搭載する船舶の実態に合わせ、各種安全対策を実施する。